外国語固有名詞の読み方 - 知ったかぶり

2021 年 9 月 20 日　虎長

I. 知ったかぶりの戒め

最近のニュースに頻繁にでてくるアフガニスタンの首都を、日本ではカブールと表記・発音するが、欧米 TV 局のニュースではカーブルと発音している。それで、「カブールは間違いだよね」と知ったかぶりをしたことがあった。ところが英語辞書で調べると両方の発音があるらしい。現地語の辞書で調べたのではないので英語辞書にある二種の発音表記が正しいかは未だに分からない。

経済学者ケインズの名前を知ったずっとあとに、イギリスの都市ミルトン＝キーンズを知り、同じ Keynes という綴りを見て、「学者ケインズは誤りで本当はキーンズのはずだ。」と知ったかぶりをしたことが一時あった。暫くして僕の想像が誤りであることが分かった。日本で翻訳が出る前のケインズの本を英語で読み始めた石橋湛山が著者本人に著者名の発音を問い合わせてケインズとの回答を得たという話を僕が知ったのは、今から 5 年ほど前のことである。

ある程度規則的に発音できる独・仏・伊語とちがい、英語は変則的な発音が多い。特にイギリスの地名。Leicester レスタ、Gloucester グロスタ、Cheltenham チェルトナム等々。日本でもライセスターとは書かなくてもレスターと最後に伸ばす「ー」を書くのが普通。でも発音に忠実なのはレスタである。そういえば、「コンピューター」と書かずに「コンピュータ」と書いた方がコンピュータ業界では格好良いという風潮があった。今もその傾向は残っている。

シェイクスピアの生地ストラトフォード＝アポン=エイボン(ストラトフォド=アポン=エイヴォン)。Avon という川の名前をアヴォンと誤読する人は少ない。カナダの話になるが、日本では「赤毛のアン」で知られるアンのシリーズ本に「アン・オブ・アヴォンリー」という本がある。Avonlea はエイヴォンリーが正しいのではないかと疑い、英文朗読を YouTube で探して確かめたらアヴォンリーが正しかった。

II. 慣用化した発音・表記には抗いにくい

日本で定着してしまった発音に異を唱えるのはどうかと迷う場合がある。Oxford はオックスフォードと発音・表記するのが普通だが、ford が独立した一語でなく語尾に来る場合は「フォードでなく軽くフォドと言うのが正しい」のだが、そう言ったら、「何を知ったかぶりをしているのだ。」と言われそうだ。北京を「ペキンでなくベイジンが正しい」と言うのと大差ないかもしれない。

英国ストラトフォドの近くに Warwick という地名がある。ウォリックと読む。米国の女性歌手、ディオンヌ・Warwick の姓は、日本ではワーウィックとのみ呼ばれている。僕はウォリックが正しいと思う。戦争の War はワーでなくウォーであることは中学英語レベル。でも「リーダーズ・プラス英和辞典」によると、彼女の場合、ウォリック、ワーリック、ウォーウィックと三通りの発音があった。米国は多様性の国で、いろいろ呼ばれることがあるのだろう。英国の Warwick はウォリックのみ。

オランダのコンサート・ホール Concertgebouw は日本では昔から正しくコンセルトヘボーと記述されている。G はガ行でなくハ行の字で表記されているのだ。以前はヴィンセント・ヴァン・ゴッホと表記

されていた画家の名前は、最近はオランダ語に近づけ、V を V 音でなく F 音としてフィンセント・ファン・ゴッホと記すようになってきている。でも Goch をホッホとオランダ語に近づけるのは無理だろう。ゴッホががっちりと定着しているから。

III. それでも改めてほしいものもある

クラシックの往年の名歌手、エリーザベート・シュヴァルツコプフの姓 Schwarzkopf は日本では音楽専門家の多くがシュワルツコップと書く。W を V 音として表記しないのは、ヴィーンでなくウィーン、ヴァグナーでなくワグナーと書くのが一般的なのでよいとして、kopf はコップでなくコプフと改めてほしい。

ウィーンの楽友協会 Musikverein の Verein に関しては、日本の音楽評論家のほぼ全員が 「フェライン」と誤記している。正しくは「フェアアイン」であり、日本のサッカー関係者はほぼ全員、ドイツのサッカー組織の話に出てくる Verein を「フェアアイン」と必ず正しく発音している。

モーツアルトのイタリア語オペラに「Cosi fan tutte　女はみんなこうしたもの」というのがある。日本の音楽評論家の半分が Cosi をコシと誤記している。正しくはコズィ（コジ）である。イタリア語では母音と母音にはさまれた S 一文字は S 音でなく Z 音である。この規則はフランス語の場合も同じだ。

ミュージカルの「マイ・フェア・レディ」のレディは ready みたいだ。Lady にふさわしくレイディとしてほしい。ミュージカル「エリザベート」は、「エリーザベト」または「エリーザベート」にしてほしい。 「ベ」でなく「リ」にアクセントがあるからだ。

IV. 目くじらを立てるほどのことではないけれど

最近亡くなったフランスの俳優ジャン＝ポール・ベルモンドの Paul はフランス語では正しくはポルである。英語にひっぱられてポールとなったのだろう。ビートルズのポール・マッカートニーの Paul は英語だからポール。

Paul といえば ロンドンに St Paul's Cathedral がある。日本ではセント・ポール大聖堂といわれる。「's」のズという音を落としているのはそれでよいとして、St は人名の前につける場合はセにアクセントはなく、英国では軽く sn「スン 」と発音する。一昨年亡くなられた、早稲田の出口保夫先生は、著書で「スン」を忠実に書いていた数少ない日本の英文学者の一人だった。saint が名前の前に置かれずに一般に聖人という意味で使われるのならセイントであることは皆様ご存知の通り。

フランスにも読みにくい地名は（イギリス程ではないが）ある。大聖堂で有名なシャンパーニュ地方の Reims ランス、北東部の Metz メスなど。僕は 1970 年後半~1980 年代前半海外駐在中に日本の新聞で見るスポーツ選手の名前にフリガナが無いので読めないことが時々あった。今でも錦織(ニシキオリ？ニシコリ？）とか、羽生(ハブ？ハニュウ？）とか、難しいね。

以上